つながって、広がって、動いていく

ソフトバレーボールでは井の頭住協、チーム１０１０三中バレー部、保護者、地域部、学校がつながり、三中卒業を祝うもちつき大会では、高山地区青少対、五地区青少対、三中生がつながり、授業研究では、中学校の先生と小学校の先生がつながり、中学校の図書委員会は小学校の図書主任の先生と図書館司書の先生とつながりました。こうして子ども達をまんなかに温かい輪がつながって、広がって、動いていく…

広報部取材班がカメラに収めたCS活動

三中もちつき委員

五小チーム保護者代表

三鷹の森の子ども達

高山小チーム保護者代表

井の頭住協体育部

ＣＳ委員住協担当

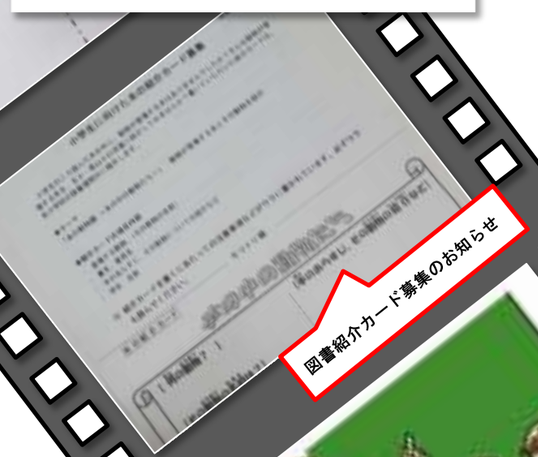
地域部

地域部部会委員

中学校と小学校のつながり

「三中の図書委員会から小学校にプレゼント」

今年のテーマは「本の動物園～本の中の動物たち～」でした。三中生が書いた図書紹介カードは五小で掲示された後、高山小に運ばれ、読書書期間中に校内に掲示されました。



図書紹介カード募集のお知らせ

チーム保護者代表

ほんとうに子どもも、私も運動が苦手だったのですが、２年連続で参加し体を動かす楽しさを味わいました。久しぶりに熱くなりました。楽しかったです。

チーム保護者代表感想

寒い時期の練習にもかかわらず参加率が高かったことが印象的でした。

そういった児童の意識の高さが、だんだん上手くなっていくことに結びついていたと思います。

少しコツを教えただけでサーブの成功率が格段に上がったり、レシーブでは「腕を振るのではなく当てるだけ」と伝えたところパスが50回続けてできたり、児童が自分の能力に気づくきっかけが得られたことも喜びに繋がっていたと思います。

試合当日も、最後まで頑張る気持ちを持ち続けたチームは逆転勝ちを手繰り寄せたり、また試合の合間にも結束を固めるチームがあったりと、試合の結果はあくまで結果ですが、児童は結果以外にも多くのものを、この取り組みで得たのだと確信できる、そんな素晴らしい成果の見える日となりました。

地域と高山小、五小保護者のながり

「ソフトバレーボール大会！」

今年で３回目の出場となり、大会でも緑のハチマキ「三鷹の森」は圧倒的な存在感を見せています。

今年は井の頭住民協議会（井の頭住協）主催のソフトバレーボール交流会も開催されました。

チーム保護者代表感想

試合当日は、サーブだけ、レシーブだけのプレーではなく、練習の成果を活かした『拾う→つなぐ→攻める』の、チームみんなでポイントを取っていく試合展開でした。ラリーが続くたびに、ハラハラドキドキでしたが、１点を取るたびに、鳥肌が立つような感動がありました。

子どもたちの最高のプレーと笑顔に、熱い感動とエネルギーをもらい、本当に代表になってよかったと感じました。ずっと長く続く活動になるといいと思います。

チーム保護者代表感想

大会では、１試合目に勝ったものの、２試合目は相手のサーブに崩され、嫌な雰囲気に…。子どもたちの表情はどんどん曇っていき、どんなに声を掛けても硬い表情は変わりませんでした。

「もっと楽しくやろうよ」という思いを伝えたかったのですが、それもなかなか難しく…

「タイムを取るのが遅かったかな」「もっといいアドバイスはなかったかな」と、まるで新米監督？のように反省している自分がいました（笑）

試合では、良い結果を残せませんでしたが、高山小チームと合同練習をすることで顔見知りになり、良い交流になったと思います。また、普段やっているスポーツとは勝手が違うことも感じたのではないでしょうか。新たな発見を求めて、様々なスポーツに接してほしいとも思いました。

多くの方々のご協力を頂きながら、このような大会が実施され「子どもたちがチャレンジできる場所」を与えて下さっていることを感謝致します。

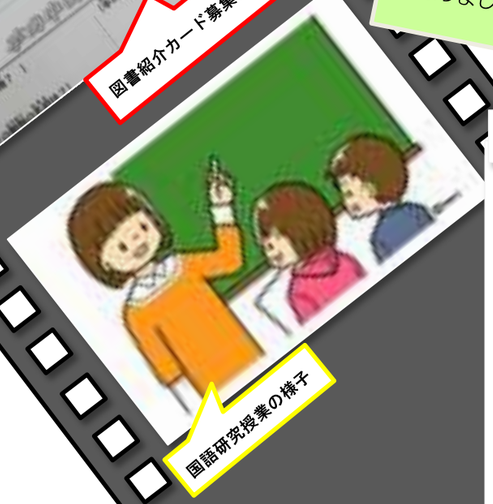
五地区青少対

高山地区青少対

先生と先生のつながり

「三中の宮城副校長先生が小学校の先生の先生！」

私たちの知らないところでも小・中一貫のつながりは深まっています。たとえば、先生方は授業力向上のために、さまざまな研修会をしています。この度、小学校からのラブコールに応え三中の宮城洋之副校長先生が、五小松本匡広先生の国語科研究授業の指導・講評をしました。題材は「ごんぎつね」。すっかり宮城副校長先生のご指導に魅了された松本先生は「一生



国語研究授業の様子

高山地区青少対と五地区青少対と三中のつながり

「三中卒業を祝うもちつき大会」

子どもの健全育成のために活動をしている青少対（三鷹市青少年対策委員会）が毎年三中生の卒業祝いに「もちつき」をします。この「もちつき」の日のために、高山地区青少対と五地区青少対、三中もちつき委員で実行委員会を作り、打合せを重ねました。当日は高山地区青少対のもちつき模範演技を見た後、いよいよ三中生が杵を持ち、餅をつきます。つきあがった餅はすぐに五地区青少対の手によって分けられ、三中生の「味付け係」があんこ、きな粉をまぶしていきます。今年で30回目を迎えるだけあり、流れるような連携プレーです。

また、例年高山地区青少対は高山小 6 年生に「竹ぼうきつくり」をおこない、五地区青少対は今年、五小 6 年生に「落語」を卒業のお祝いに催しました。

五地区青少対実行委員長

高山地区青少対実行委員長